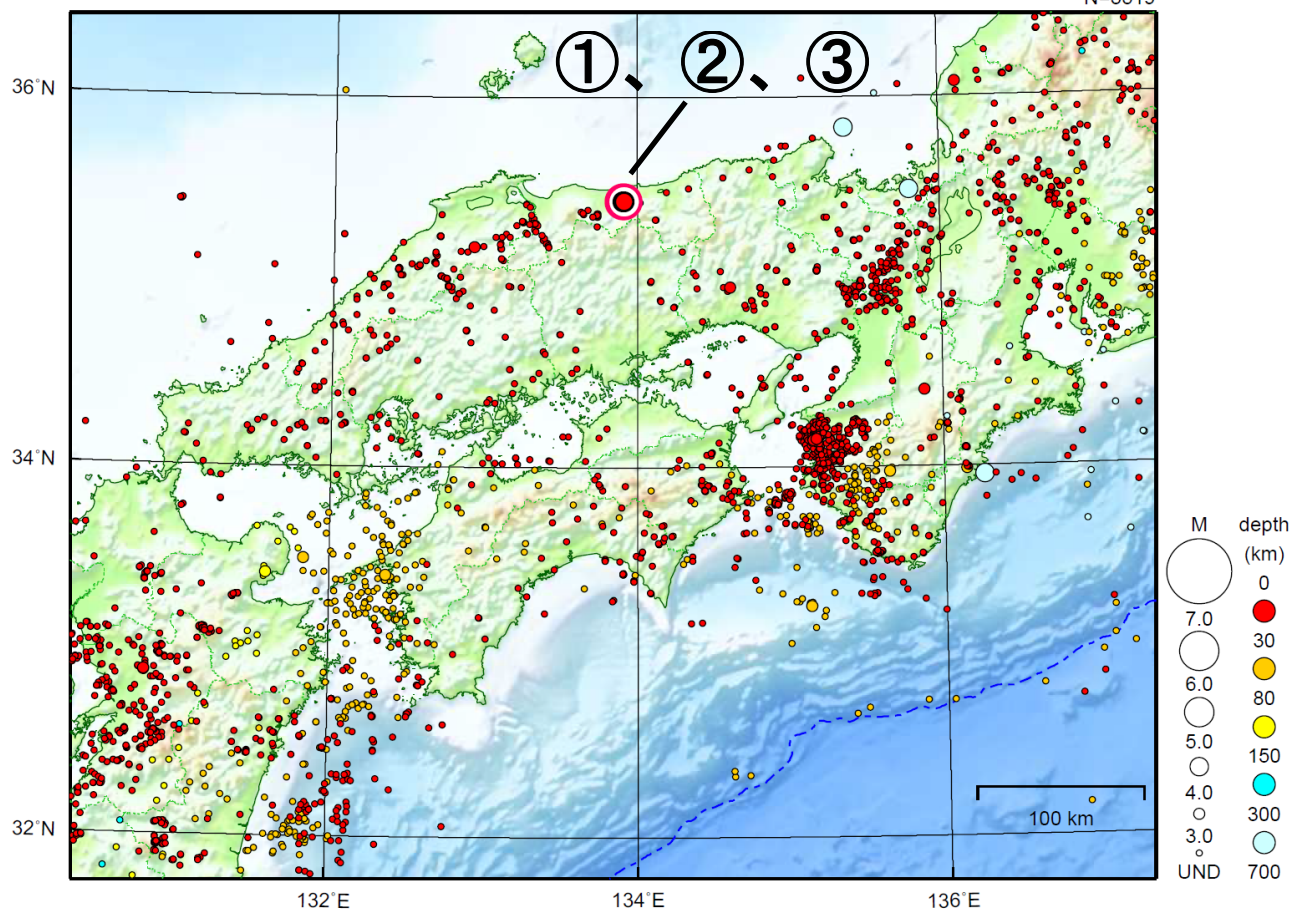


近畿・中国・四国地方

2015/10/01 00:00 ~ 2015/10/31 24:00

N=3519



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOP02v2を使用

- ① 10月17日に鳥取県中部でM3.8の地震（最大震度4）が発生した。
- ② 10月18日08時30分に鳥取県中部でM4.2の地震（最大震度4）が発生した。
- ③ 10月18日08時36分に鳥取県中部でM4.3の地震（最大震度4）が発生した。

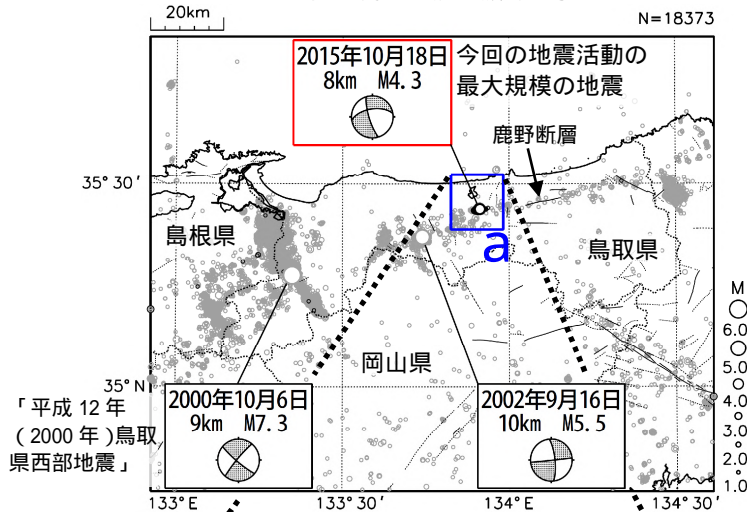
[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

10月15日からの鳥取県中部の地震活動

震央分布図

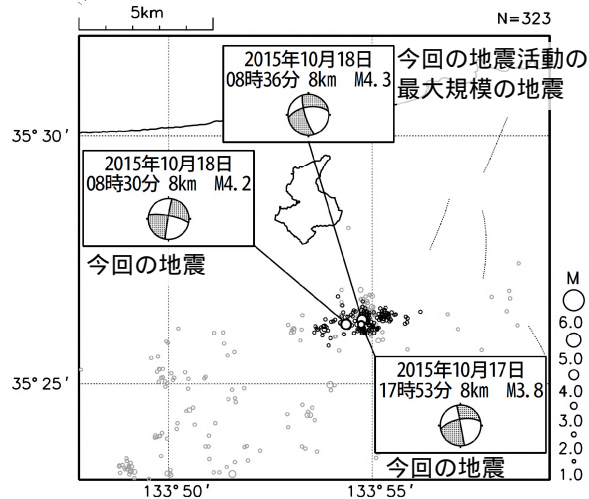
(2000年10月1日～2015年10月31日、
深さ0～20km、M 1.0)

2015年10月の地震を濃く表示



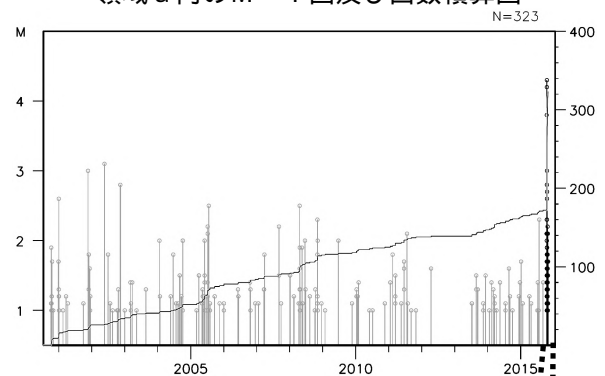
2015年10月15日から鳥取県中部でまとまった地震活動が見られ、31日までに最大震度1以上を観測する地震が23回 (最大震度4：3回、最大震度3：2回、最大震度2：3回、最大震度1：15回) 発生した。今回の地震活動は10月18日が最も活発で、その後徐々に落ち着きつつある。今回の地震活動は地殻内で発生し、そのうち、最大震度4を観測した地震は、10月17日17時53分に深さ8kmで発生したM3.8の地震 (発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型) 10月18日08時30分に深さ8kmで発生したM4.2の地震 (発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型) 10月18日08時36分に深さ8kmで発生したM4.3の地震 (発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型) である。(付き数字は左中央の震央分布図内の付き数字と対応。)

2000年10月以降の活動を見ると、今回の地震の活動領域付近 (領域a) では、M2.0以上の地震が年に数回程度発生しているが、M4.0以上の地震は今回が初めてである。今回の地震の震央から西南西に約20km離れたところで、2002年9月16日にM5.5の地震 (最大震度4) が発生し、住家一部破損8棟などの被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。

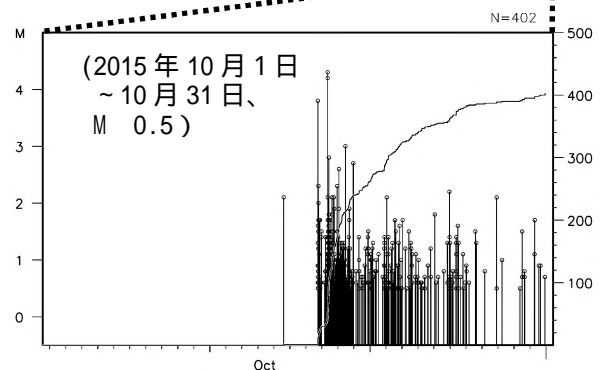
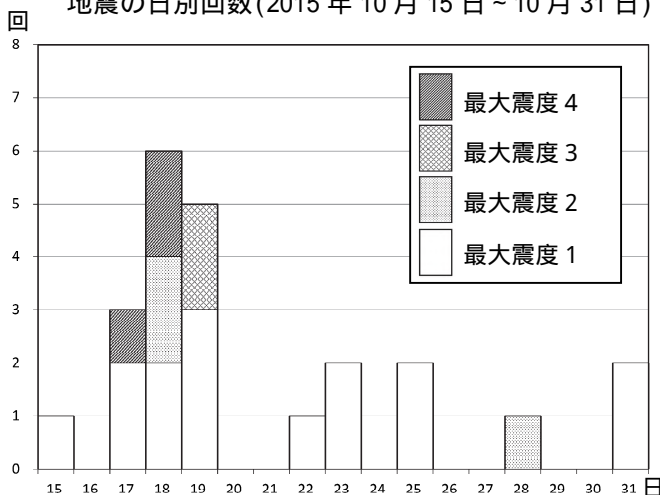


図中の細線は「新編日本の活断層」による活断層帯を示す

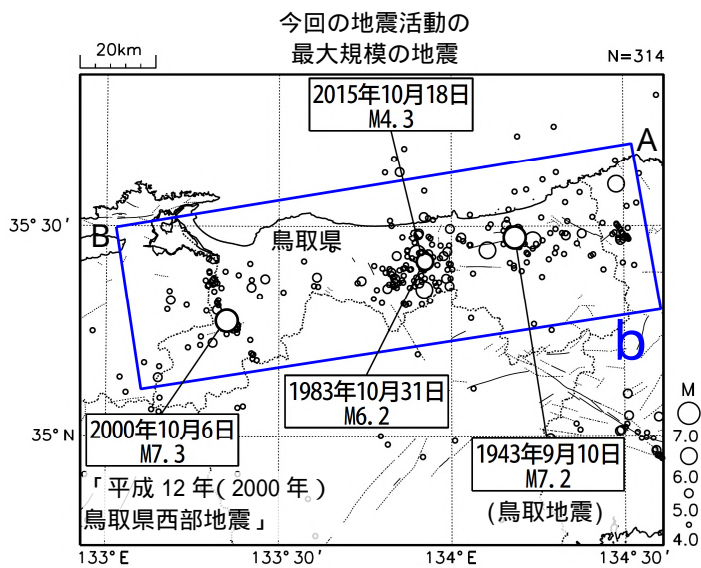
領域a内のM-T図及び回数積算図



今回の地震活動で最大震度1以上を観測した地震の日別回数 (2015年10月15日～10月31日)



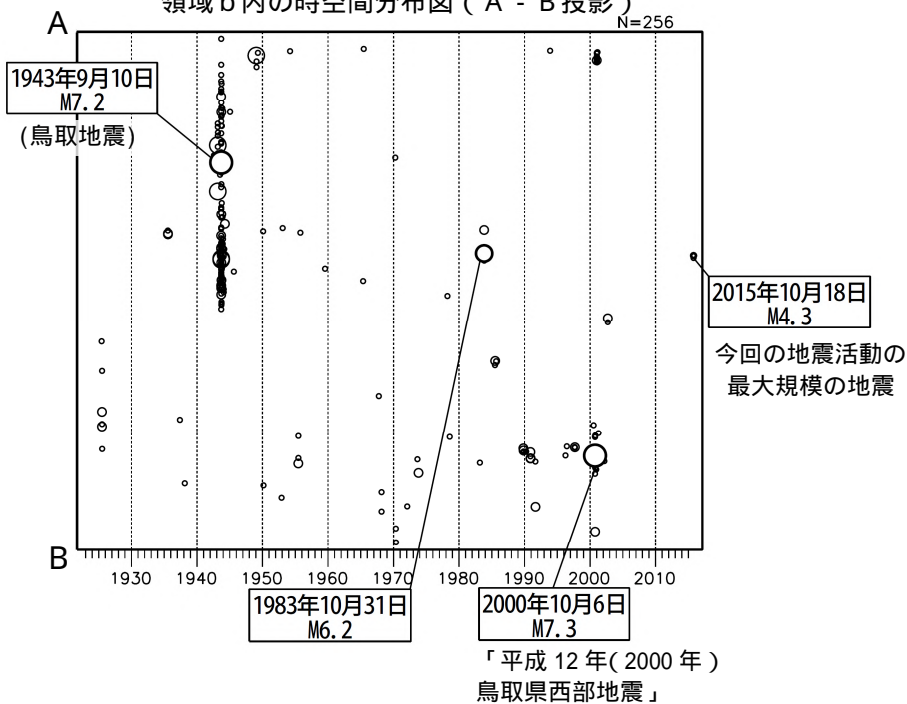
震央分布図
(1923 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 10 月 31 日、
深さ 0 ~ 50km、M 4.0)



図中の細線は「新編日本の活断層」による
活断層帯を示す

1923 年 1 月以降の活動を見ると、今回の活動領域の周辺（領域 b）では、1943 年 9 月 10 日に M7.2 の地震（鳥取地震）が発生しており、死者 1,083 人、重軽傷者 3,259 人などの被害が生じた。また、今回の地震活動の数 km 南方で 1983 年 10 月 31 日に M6.2 の地震が発生し、負傷者約 10 人、鉄筋コンクリート 3 階建建物の柱の剪断破壊などの被害が生じた（被害は共に「日本被害地震総覧」による）。2000 年 10 月 6 日には「平成 12 年（2000 年）鳥取県西部地震」（M7.3、最大震度 6 強）が発生し、負傷者 182 人、住家全壊 435 棟、住家半壊 3,101 棟などの被害を生じた（被害は、総務省消防庁による）。

領域 b 内の時空間分布図（A - B 投影）



領域 b 内の M - T 図

